



自学・敬愛・誠実

三原の嶺より

◆学校教育目標◆

- ・自ら進んで学び
- ・自然や人を愛し
- ・たくましく生きる生徒

令和5年11月27日（令和5年度 第7号）

発行責任者 大島町立第一中学校長

生徒の道徳性が伸び、登校するのが楽しく、安全な学校
確かな力のつく学校、地域に学び、地域とともに歩む学校

厳しい指導＝不適切指導？

副校長

今年も残り1カ月強となり、来年のカレンダーも出回ってきました。カレンダーの中には日付に加え、諺や格言等の言葉が書いてあるものもあります。先日いただいたカレンダーの一部に以下の言葉が書かれていました。

「生活の基本を厳しく躱ける事が子供に対する親の愛情である」

【解説】

子供に対する親の愛情を表す例えとして、よく引用されるのが「獅子の子落とし」の話です。獅子は生まれて間もない自分の子供を敢えて深い谷底へ突き落とし、独力で這い上がってきたものだけを育てる、という俗説です。これは大自然の厳しい条件の中で「将来立派に生きていけるように」と親が子供に与える試練であり、同時に真の愛情でもあるわけです。人間の場合も同様の考え方が必要なのかもしれません。子供の躱は生まれてから三歳ぐらいまでが最も大切であると言われています。かわいくて仕方がないのはどの親も同じだと思いますが、厳しい世の中で、将来立派に通用し、社会に役立つ人間を育てるためには、幼い頃から甘やかしたり、我が儘を通させることを避けていかねばなりません。情に流されず、親の自己満足に陥らず、「子供の本当の幸せとは何か」を常に考えながら、深い愛情をもって、厳しい躱をしていてもらいたいと思います。

数年前までは、こうした考え方に異を唱える人は、あまり多くいませんでした。しかし、最近では「厳しい指導＝不適切指導」「子供を叱ること＝虐待（人権侵害）」といった考えをもつ人が増えているように感じます。そうした人には上記のような考え方も「おかしい」「不適切・不必要だ」「時代に合っていない」など思うのでしょうか。一人一人の考えが尊重され、多様性が重んじられる現代において「これが正しい」と一つの考え方だけで語るのは難しくなっているように思います。

こうした指導について、先日ネットの記事でイチローさんが、以下のように考えを述べていました。

「指導者、厳しくできないって。時代がそうなっちゃって。今、自分を甘やかすことはいくらでもできちゃうよね。でもそうやってほしくない。いずれ苦しむ日が来るから、大人になって社会に出てから。でも、導いてくれる人がいないと楽な方に行くでしょ。自分に甘えが出て、結局苦勞するのは自分。厳しくできる人間と自分に甘い人間、どんどん差が出てくる。ある時代まではね、遊んでいても勝手に監督・コーチが厳しいから全然できないやつがあるところまでは上がってこられた。やんなきゃしょうがなくなるからね。でも、今は全然できない子は上げてもらえないから。それ自分でやらなきゃ。なかなかこれは大変」【Yahooの記事より一部抜粋・編集】

つまり「厳しい大人（指導者）がいないと、自分を律することができる生徒と自分に甘える生徒で二極化が起きる」また「自分に甘い生徒はどんどん取り残されていく」とおっしゃってます。

私の子供の頃は厳しい大人は周囲にたくさんいました。嫌な思いや理不尽だと感じることも多く経験しましたが、その時の経験が大人になって生きていく、役立っていると感じたことも多くあります。当時は分からなかったことが数年後、数十年後に分かることもたくさんあります。社会は決して甘くありません。生徒たちが将来、国家・社会の形成者として自立して生きていくためにはどのような教育が必要か。学校教育の目標である「『生きる力』を育む」ためには、厳しい指導は本当に不適切で不必要なのか。多くの情報が溢れ、多様な考えが入り混じる現代において社会全体で一度よく考えてみる必要があるのかもしれない。

校内マラソン大会

fax04992-2-4702 <http://town.oshima.tokyo.jp/~oshima1c/>

11月1日(水)にサンセットパームラインでマラソン大会が開催されました。距離は、男子6.7Km、女子3.9Kmで行われました。昨年よりも少し気温が高い中での大会となりましたが、大島の自然を感じながら一生懸命走る様子がみられました。自信がなく不安そうにしている生徒もみられましたが、授業や駅伝練習で体力が向上し、本番では最後まで諦めずに走り切ることができていたと思います。一中マラソン大会伝統の「最後まで応援する姿」が今年もみられ、走り終えた生徒がゴールする生徒を励まし、最後まで応援することができていました。

また、スタート前には全校で清掃活動に取り組みました。仲の原園地を中心に清掃を行いサンセットパームライン沿いや長根浜周辺の清掃を行いました。ペットボトルや発泡スチロールなどを回収し地域への貢献も行うことができました。応援ありがとうございました。



【入賞】

男 子	記録	女 子	記録
1位(3年)	26'06	1位(3年)	16'37
2位(2年)	27'43	2位(2年)	18'18
3位(2年)	28'09	3位(3年)	18'48
4位(3年)	28'23	4位(2年)	20'24
5位(2年)	29'41	5位(2年)	20'47
6位(3年)	30'15	6位(3年)	21'04

第 66 回大島町駅伝競走大会

<http://town.oshima.tokyo.jp/~oshima1c/>

10月29日(日)に大島町駅伝競走大会が開催され、本校からは男子A・Bチーム、女子A・Bチーム、教員チーム(一中爽走)の5チームが出場しました。当日ベストを尽くした選手だけでなく、補欠やマネージャー、グラウンド練習組など全員がチーム一中として日々頑張ってきた成果を出し切れた大会となりました。女子Aチームは中学生女子の部で優勝し6連覇を達成。東京都駅伝競走大会出場を果たしました。男子Aチームは昨年度の記録を4分上回る結果となりました。沿道からの仲間たちの応援や保護者の方々からの温かい声援が選手たちの力になりました。ご声援ありがとうございました。出場選手と記録を紹介します。

【男子Aチーム】

担当	記録
第1区	16' 55 (中学男子区間新)
第2区	17' 46
第3区	9' 45
第4区	21' 19
第5区	21' 10
第6区	10' 18
補欠	サポート
補欠	サポート

【男子Bチーム】

担当	記録
第1区	20' 25
第2区	18' 45
第3区	10' 46
第4区	23' 02
第5区	23' 27
第6区	11' 00
補欠	サポート
補欠	サポート

【女子Aチーム】

担当	記録
第1区	21' 17 (女子の部1位)
第2区	21' 23
第3区	11' 20 (女子の部1位)
第4区	22' 20 (女子の部区間新・1位)
第5区	25' 52
第6区	12' 38
補欠	サポート
補欠	サポート

【女子Bチーム】

担当	記録
第1区	23' 31
第2区	24' 50
第3区	11' 42
第4区	28' 23
第5区	27' 15
第6区	14' 08
補欠	サポート
補欠	サポート

【教員チーム (一中爽走) ^{いっちゅうそーらん}】

担当	記録
第1区	1 9' 4 5
第2区	1 8' 0 3 (職場部門 1 位)
第3区	1 0' 4 7
第4区	2 5' 2 2
第5区	2 6' 0 6
第6区	1 1' 2 5 (女子部門区間新・1 位)



東京都中学校駅伝競走大会

11月11日(土)に江東区夢の島競技場で行われた東京都中学校駅伝競走大会に出場しました。大会当日は風が強く雨もちらついていました。気温も低く、ベストコンディションとはいかない中でしたが出走までの時間、補欠の生徒たちが選手たちを一生懸命支えてくれました。各区間を走った選手たちもそれに答えるような素晴らしい走りをしてくれました。都駅伝大会に向けた練習を始めた頃はチームとしてのまとまりがなく、このまま都駅伝大会に出場する意味があるのか考えるほどでした。しかし、練習を重ねるごとにチームがまとまっていくのを実感しました。記録としては、昨年度のタイムより落ちてしまいましたが、最後までチーム一中として、大島の代表として全力で走り抜き、結果よりも記憶に残る大会となりました。応援ありがとうございました。

【結果】64チーム中 34位 (51分04秒)



令和5年度 海上保安庁出前授業

11月20日(金)、海上保安庁第三管区海上保安部羽山本部長、中澤様(元海猿)、冨田様の3名の方にお越しいただき出前授業をしていただきました。「日本の海を守る」をテーマに羽山本部長からは台風が発生した時には海上のどこで事故が起きてもち早く駆けつけることができるように台風の目の中に突っ込んでいくといった身を挺して人々の安全を守っているというエピソードをお話していただきました。元海猿の中澤様からは死の危険に合いながら人命救助をしていたお話からきついつトレーニングのお話まで様々なお話をしていただきました。今回の出前授業が皆さんの今後の進路を考えるうえでの一つの材料となればと思います。



生徒の感想より

海上保安庁という名前は聞いたことはありましたが、どんな仕事をしているのか知らなかったので聞くことができ、勉強になりました。特にすごいと思ったのは沈没した船に乗っている乗客を助けたエピソードです。自分の命も危ないのに他の人も助けるのがすごいと思いました。これからも海を大切にしたいです。(1年生)

僕たちにとっては身近な海、そんな海を支えてくれている海上保安庁はとても格好良く感じました。今回の経験を生かし、今後の進路を考えていきたいです。(2年生)

日本は安全だという思い込みが強くありました。ですが、少し外へ目を向けてみると、海賊や外国船によって私たちの平和や安全が脅かされていると知り、驚きました。また、このような組織があるから安全が守られていると知りました。将来の夢は明確に決まっていますが、このように当たり前を守り、支える仕事に興味をもちました。(3年生)

一中サミット第三部～大島の農業のこれからを提案する～

5月の進路講演会に引き続き、篠崎農園の篠崎哲郎さんにお越しいただき、一中サミット第三部を開催しました。前回の篠崎さんの講演では、大島の農業には、農業人口の減少、農作放棄地の問題、キョンなどの害獣問題など多くの解決しなければならない問題があることを知りました。今回の一中サミットでは「大島の農家を増やすには」「キョンなどの害獣にどう対策するか」「SDGsを踏まえた持続可能な農業」の3つの問題を篠崎さんより提起していただき、1時間で問題の解決策を考えることからプレゼン資料の作成を行い、プレゼンテーションを実施しました。篠崎さんが感心されていたのは3年生がプレゼン資料を作成するスキルの高さと実現しそうな解決策を考える力の高さです。「大島の農家を増やすには」では、「豚を飼う」や「団体でやる」などの解決策が出て、理由として「豚はエサも選ばず様々な食べ物を食べ、そのフンは窒素、リン酸、カリウムを多く含む肥料となるから」や「団体だと初期投資や経費を抑えられるから」などの理由が挙がりました。「キョンなどの害獣にどう対策するか」では、キョンやカラス、サル、リスなどの害獣の特徴から、大島でも実現がしやすい対策について（箱罾や金網を設置するなど）まとめられていました。「SDGsを踏まえた持続可能な農業」では、社会で学習した二毛作を取り入れることやテレビ番組の企画にもなっている0円食堂を企画する、農業のコンサルティングをする会社を作るなどの実現したら面白そうな企画が出ました。それぞれのグループが大島について考え、大島を良くしたいという思いが強いからこそ、今回のような素晴らしいプレゼンができたのだと思います。次は3月に「大島の観光のこれからについて考える」をテーマに一中サミットを実施します。最後の一中サミットも今回のような素晴らしい企画が出てくることを期待しています。



【生徒の感想より】

- 「農業」は、時代が変化して技術の進歩があっても「人に食べ物を届ける」という想いは変わらない職業だと考えました。生活に欠かせない農業をどう続けていくか、多くの側面から意見を出していく中で「一つのものに対して様々な視野から考えること」の大切さを実感しました。収入や害虫などの課題が農業には残っていますが、多方面からの目線で物事を考えていくことで発展していくと思います。
- 農業という仕事は身近なものであり、あまり知ることのないものだと思っていたので、今日多くのことを知れて良かったです。自分たちで調べるとより、知識を増やすことができ、あらゆる問題と戦いながら農業をしていると知れました。今後大島で行われる農業やその他に関するイベントにはどんどん参加したり、いろいろなことで大島に貢献し、大島を守っていききたいと思います。
- 農業について考えてみると身近な存在なのに分からないことも多く、いかに農業が自分たちの生活を裏から支えているかを知りました。
- 農業は自分たちが生きていくうえで、なくてはならない仕事なのに、若い世代の農業をやっている人が少ないのは大変なことだと感じました。私はどうしたら農家を増やせるか考えましたが、やはり初期費用や技術の面で課題があると感じました。現実的な対策はもちろん、それを超える農業の魅力を伝えていくことが大切だと思いました。

くろしお学級のコーナー

調理実習で豚汁を作りました。
同じ大きさに野菜を切ることを意識しました。



電動車いすの走行練習で
買い物に行きました。



さつまいもを掘りに行きました。



つばき小学校みはら学級のみなさんをお招きして
ハロウィンパーティーをしました。



校内を案内しました。

みんなでダンス!

収穫したサツマイモで天ぷらと
スイートポテトを作りました。



校内マラソン大会がんばりました。



TGG 英語体験

11月7・8日の2日間、バーチャルによるTGG英語体験プログラムを行いました。ここ大島にしながら、バーチャル空間を介して海外や宇宙へ旅するプログラムです。自分のアバターを動かしながら様々な場所を周りました。英語の得意不得意関係なく、英語での会話を楽しんでいました。間違いを恐れず、積極的に相手とのやり取りに心躍らせる様子をご覧になったTGGの方からは

「1年間でこんなにも英語表現が豊かになるのですね。驚きました」と昨年度の様子を思い返し、一中生の英語力が向上したというお言葉を頂戴しました。このように充実した英語体験ができたのも、

一中生の皆さんが日頃から英語学習をしっかりと行っている成果だと思えます。「好きこそ物の上手なれ（意味：どんなことであっても、人は好きなものは熱心に努力するので、上達が早い）」ということわざがあります。この度味わった楽しさを、是非日頃の学習にも反映させ「自分の言葉」で表現することの面白さを追求してほしいと思います。

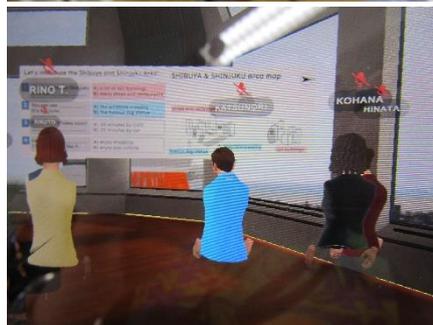
プログラム内容

1日目

- OTGGロビー（自己紹介）
- 飛行機内（飲み物・雑誌の注文）
- 空港（入国審査）

2日目

- ロケット発射基地（物の描写）
- 宇宙ステーション（類似点の説明）
- 展望台（東京観光案内）



12月行事予定

- 5日（火） 連合音楽会（1・2年）
- 6日（水） 三者面談（始）
- 7日（木） くろしお校外学習
- 13日（水） 2年海洋国際高校訪問
- 14日（木） 三者面談（終）
- 15日（金） 俳句教室
- 19日（火） 小学生への学校説明会

- 22日（金） 避難訓練
- 25日（月） 終業式 大掃除

- 【SC出勤日】 1日（金）、 8日（金）
14日（木）、 15日（金）
22日（金）